第２回 公民館学習会「バスハイク」

6月14日

とよおか

第 737 号
発行人●豊丘村公民館
館長　市澤和宏
編集人●長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265－35－9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
（7月1日現在 ※外国人を含む）

男	3，312人
女	3，324人
総人口	6，636人
世帯数	2，233戸

豊丘中学校二年生 しごと・未来フェア 6月22日

二学年主任　成田昌弘

本校二学年と大鹿中学校二・三年生合同で、豊丘村役場、豊丘村商工会の皆様にご尽力いただき、村内外から十四の企業が参加してくださり、今年度もしごと・未来フェアを実施することができました。二学年のキャリア教育は四月の農業体験、今回のしごと・未来フェア、七月に実施予定の職場体験学習の三つの行事を通じて、「働く」ということについて深く学び、自分の将来について考えるきっかけとしています。当日は、製造やサービス、金融、介護、販売など様々な職種の企業ブースを班ごとに巡り、仕事内容のお話や簡単な仕事体験をさせていただきました。美容室のブースではパーマの巻き方の体験をさせていただき、また金融業のブースでは紙幣の数え方を教わるなど、生徒たちは見るのと実際にやるのでは全然違うということを実感し、経験することや長く物事を続けることの大切さを実感しました。実際に仕事をしている人たちの声に耳を傾け、自分の将来について考えたある生徒は、働くとは「生活するため」と考えていたが、しごと・未来フェアを通じて「人の役に立つ。社会を共に作っていく。それが自分のやりがいとなり喜びになる」という感想を持ちました。働くという意味についての考えの変化がありました。また別の生徒の感想は「しごと・未来フェアを終えて、将来について改めて考えることができた。どんな気持ちで働いているのかも少し分かったような気がする。また、たくさんの職業を知ることができ本当に良かった。これから改めて将来について真剣に考えていきたいと思います」と感じていました。実際に働いている方々の声を聞いたことで、生徒たちは将来の自分についてイメージを膨らませ、進路選択の参考となりました。

バスハイク 元善光寺・甲斐善光寺 御開帳へ

六月十四日、第二回学習会のバスハイクが行われました。今年は四年ぶりに県境を越え、御開帳でにぎわう山梨県の甲斐善光寺へ参拝に出かけました。近年はコロナ禍で県をまたいだ移動が自粛されており、参加者も久しぶりに県外に出たという方が多くいらっしゃいました。当日は、残念ながら小雨に降られてしまいましたが、参加者は善光寺さんの縁起について学びを深めることができました。

今年度になって、徐々に社会活動が再開される動きとなってきました。公民館の学習会も、感染予防に配慮しながら例年通りの活動を再開させています。

今年は、七年に一度の善光寺御開帳の年でもあります。全国に善光寺と名の付くお寺は二百以上ありますが、バスハイクではそのうち、地元にある元善光寺と山梨県にある甲斐善光寺に参拝にいきました。

御開帳では、絶対秘仏であるご本尊の代わりに全く同じお姿の前立本尊が公開され、この前立本尊と「善の綱」で繋った回向柱に触れることで功徳が得られるものです。一日で二箇所の善光寺さんをお参りする機会はそうそうあることではないため、この日バスハイク参加者の皆様が積まれた功徳は相当なものだったのではないでしょうか。

山梨県への移動の車中では、バスガイドさんがわかりやすく沿線をご紹介くださいました。「おみやげ」の語源や、高遠の桜について、諏訪湖に関する豆知識など、とても楽しく勉強になるものばかりでした。山梨県といえば富士山ですが、この日は雲に隠されていたのが残念です。

また、山梨県はフルーツ生産でも有名で、サクランボの生産量は全国三位です。バスハイクでもさくらんぼ農園に立ち寄りましたが、今年はニュースになるほどの不作の年ということです。それでも、農園の皆さんがバスハイク参加者の皆様のために確保してくださった園地で、真っ赤に色づいたさくらんぼを堪能することができました。一時期は自粛で全くお客様が入らなかった観光農園も、今は徐々に観光客が回復しているということです。

長く続いた活動の自粛も、今は少しずつ動き出しています。他の地域を知って地元の良いところを再発見する、そんな学びが今後も続けられることを願っています。

（公民館主事　萱沼智子）

段丘

年齢を重ねる度に身体の調子は悪くなる一方で、どこかに必ず一つは要検査が必要と言い渡される。村のヘルススクリーニングでも、人間ドックでの検査も定期的に受けていると、必ずと言っていいほど数字に何らかの異常が見つかる。こうして再検査を行った結果が手術まで到達してしまった。この年になって初めての入院に心弾ませ？あれから一年以上が経過して、何度ものCTを経験するが今のところ異常なしと結論が出て安心するも、検査後の数日で痛みを伴い再び受診となり、この頃から今まで言いつけを無視してサボってきた報いが出たのだった。

この痛みは毎日の運動と一日二リットルの水分を摂ることで緩和されると言い渡されたのだ。それ以来運動は毎日一万歩以上歩いた。まあ暇だったこともあり家を拠点として、村内は山道、畦道、村道など水をザックに入れくまなく歩いたのだった。昨年二月から今まで歩いて今では隣接する町村まで歩き尽くしたのだった。

ここまでくれば歩くのが楽しくなって、細かな景色が見えてくることも歩くことの収穫となっている。今では辛いとも思わなくなっている。少しづつ数字の結果が回復基調になってくるとやはり嬉しいもので、多少の足腰が痛くても、無理をしない程度にやり通していることが、今の自分に感謝しなくてはいけない。（宮下正弘）

夏到来！「夏休みこどもウィークス」

夏休みが始まります。沢あるきツアー・平和学習・人形劇・狼煙上げなど毎年こども向け事業は公民館を始め、様々な団体でも行われます。

そこで本年公民館社会部が発案し、【SDGs目標17】パートナーシップで目標を達成しようの考えから、事業母体の横のつながりにより、こども向け事業の告知を一元化して行うことで各事業への関心を高めてもらうことを目的とした「夏休みこどもウィークス」が始まります。ご案内の期間は七月八月の二ヶ月間です。団体の垣根を越えて様々な事業が一覧できるようになり、また、QRコードを活用して各事業の情報をご覧いただけるようにしました。各ご家庭でこの夏の計画の参考にしていただければ幸いです（それぞれの事業は今まで通りの広報活動も行います）。

初年度の今年は、小中学校・公民館・公民館社会部・社会教育係とよおか総合型地域スポーツクラブ・とよおか旅時間の連携で始まりました。コミュニティスクールの観点から学校も積極的なご協力をいただいています。

今回初めての試みである、ゆめあるてを会場とした自習室開放の事業では、子どもさんに響くネーミングをとの思いで中学生から多くの応募をいただき、コミュニティスクール・地域学校協働本部運営委員会のみなさんの投票により「ゆめスタ」に決定しました。ゆめあるてとスタディーからの発案とのこと。中学生のみなさんに感謝申し上げます。本年はスタートしてしましたが、今後この横のつながりの輪が広がっていくことをとても期待しています。

「夏休みこどもウィークス」のご案内は学校を通じて各ご家庭に、そして村内全戸配布を予定しています。参加してみたいと思ったら、ご家庭で相談され、今年の夏の思い出作りにぜひ積極的なご参加をお願いいたします。

（公民館長　市澤和宏）

『目標11 住み続けられるまちづくりを』～SDGsって何⑭～

公民館長　市澤和宏

●目標11　包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市及び人間居住を実現する

包摂はもう慣れていただいたと思います。強靭（レジリエント）と表されます。包摂的で安全で強靭な持続可能な都市と持続可能な人間居住を実現する事がこの目標です。

さて、この目標のターゲットは全部で十。内、具体的な目標七。具体的な目標を達成するための方法三つです。

世界人口の半分、およそ三十五億人が地球の陸地のたった三％の都市に住んでいます。この陸地の三％にある都市では世界全体のエネルギーの六割から八割を使い、しかも炭素放出量は世界中の七十五％に達する結果が国連開発計画資料にて発表されています。世界中で都市部への人口流入が進んでおり二〇五〇年には世界人口の三分の二に達すると予想されています。都市はインフラなどの整備がされており利便性が高い反面、とても格差と不平等が大きな場所でもあると考えます。そしてスラムに代表されるような地区が必ず存在し、都市の中でも劣悪な環境での生活を送っている人々も存在していることを認識しておかないといけないと考えます。私たちの日本に目を向けると頻繁に「限界集落」という言葉を耳にされると思います。都市部への人口流出が進み、過疎化と高齢化の波に飲み込まれている地域が思い当たると思います。この先は？「消滅集落」が多く発生する事が安易に想像されます。二〇一四年、時の総務大臣が国勢調査をもとに二〇四〇年には全国千八百市町村の約半分の八百九十六市町村が消滅の恐れがあるとの発表を行いました。しかし現在未来は捨てたもんじゃないという近未来を、内閣府が動画でしています。Society5.0（ソサイエティ5.0）という動画です。人間社会はSociety1.0 狩猟社会、Society2.0 農耕社会、Society3.0 工業社会、Society4.0 情報社会と進化し、現在は五番目の社会を迎えています。

この目標11は世界の目標ですが、自分事として住みやすい地域、住みやすい地元を考え、持続可能性に向け智慧をしぼる事がとても重要と考えます。

この目標11に対して私たちにできることは何かを考えてみましょう。

①自分が住みたいと思う地域・地元のあり方を考えてみる

②世界のスマート都市を調べてみる

［トヨタウーブンシティ・バンコク　バンスー中央駅など］

③豊丘村と東京など大都市、農村と都市について考えてみる

④自分が住んでいるところは安心・安全に生活できるか見回してみる

（参考文献『数字でわかる！こどもSDGs』株式会社カンゼン「国会祐子と考えるSDGsがわかる本」ぶんけい）

シリーズ「元気な高齢者」92

蚕と共に歩んだ人生　百人一首語んじて老い知らず

片桐良一さん　八十九歳　下市場在住

昭和七年に小園の大澤家で、四人きょうだい（男三女一）の次男として生まれた。No.74で紹介した藤一さんの弟）小学校を卒業、竜東農蚕学校へ進み途中で下伊那農業高校二年に編入、卒業後蚕業講習所で二年間学び、二十九年春に天竜社へ蚕業技術員として入社した。根羽村が初任地で、その後郡下の市町村数ケ所を転勤。飯田中央農協を最後に三十六年間勤め平成元年として定年の五十七歳で退職した。三十六年間ずっと蚕飼育に携わり、多方面で技術向上を研究してきた。時代の変遷に当たり、その集大成を史学会風土記第二十五集に纏められた。

養蚕には二つの生産技術がある。①桑園能率の向上、肥沃な土作り②育蚕技術である。この二つの技術が相伴って養蚕が成り立つので技術員は蚕作の安定と豊作を願い一貫して指導に当たった。中でも稚蚕は作柄を左右する重要な時期である。先輩が考案した稚蚕共同飼育を更に高度化、省力化した技術を国、県の補助を受けボイラで空調式温湿度調整装置と螺旋循環式飼育装置を導入した。更に飼育所の増改築が必要となり多忙であったが、完成後は従業員の減少を果たし、大きな喜びであった。

在籍中には業務逐行上必要な諸資格を取得した。①1級ボイラ技師：炭火、電熱器暖房から成の同級生の依頼で同氏所属の市内新工場の技師に就車両運転免許（ブルドーザーおよびトラクター）：老朽化桑園の改植のため③大型自動車運転免許：マイクロバスで飼育従業員の送迎とトラックでブルドーザーを移送するため、また現役中には技術員組合青年部長および組合長を務め、県の副会長も務めた。

三十四年に親戚の紹介で（片桐家（戸中）に婿養子入りし五歳下の京子さんと結婚した。京子さんは子供が小学校へ通うようになって四十七年に一家が現在地の下市場へ移住したので、今までの農業から工場勤めになり二十六年余り勤め、以後母の介護に当たった。

退職後、公務として区役員（民生児童委員）少年友の会をそれぞれ六年務めた。そして現役時代に取得したボイラ資格を活用して、高校の同級生の依頼で同氏所属の市内新工場の技師に就任して四年間勤めた。その後、シルバー人材センターの仕事と『はつらつ』の管理人を約十年間勤めた。蚕に関わったことで多くの資格を修得することが出来、そのことでより豊かな人生を過ごせたと感謝しています。

健康面では、やや難聴であることおよび前立腺に疾患がある程度で、内蔵には不安は無く薬も飲んでおらず病気には注意している。村の健康診断では極めて健全な血液を示し保健師さんに誉められた。それでも油断することなく奥さんの配慮のもと、食事には注意している。テレビは毎日のニュースを、また大河ドラマも楽しみにしている。頭の体操として新聞のクイズやナンプレに挑戦しタブレットでゲームに興じている。更に若い頃覚えた百人一首は今でも忘れることが無くスラスラと全てを諳んじることができるのには感嘆した。またカラオケも好きでレパートリーとして曲名百曲余りをパソコン入力、印刷し所持しているのにも驚いた。更にパソコン囲碁にも挑戦しているパソコンは退職後に修得したもので、区の公務時に大いに重宝した。

旅行も好きで国内は青森以外の都道府県を歩いたし、海外は退職時のハワイを始めとしてその後ヨーロッパ、ニュージーランドなどに行くことができ楽しい思い出がたくさんできた。ほとんどが夫婦同伴であった。アルコールは強くなく宴会では唄に興じることが多かった。車の運転は今でも行っているが、免許返納はぼつぼつかなと考えている。

運動は学生時代に卓球とテニスの経験があり、卓球は村の大会に毎年出場していた。現在はマレットゴルフを楽しむ程度で、体力維持を図るべく仲間と興じる。一方では僅かでも時間を見い出し歩いている。

現在の楽しみは野菜作り、地区のサロンでの仲間との団欒、更に時々訪ねて来てくれる子や孫、曾孫との会話などである。現在地に越してきて五十年になることを懐かしみながら夫婦二人で円満に暮らしている。

文責：桐崎長一

市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」が8月5日（金）に始まります

お手持ちのパソコン、タブレットやスマートフォンで、デジタル書籍を無料でお読みいただける「電子図書館」が、この八月にスタートします。この事業は、長野県内の市町村と県が協働して電子図書館を構築し、全県的にサービスを提供する事業です。県内居住者や通勤・通学で県内に通われている方であれば、どなたでもご利用いただけます。

現実の図書館と同じように、書架にある書籍データから読みたい本を借りると閲覧できるようになります。貸出期間は七日間で、予約が入っていなければ延長も可能です。一回に借りられるのは二点までで、読みたい本が貸出中の場合には予約もできます。サービス開始時点のコンテンツ数は一万八千点を予定しています。

現在、豊丘村教育委員会の窓口で利用申込を受け付けています。こちらで申し込めるのは、「豊丘村にお住まいの」で「図書館の貸出カードをお持ち」の「個人の方」です。電子申請でもお申込みいただけます。

図書館には、皆様が知りたい情報が溢れています。現実の図書館と電子図書館、どちらもそれぞれの強みがあり、皆様の学びをサポートしてくれます。ぜひご活用ください！

（教育委員会事務局　菅沼智子）

とよおか100年前⑦

『豊丘村民話集』より

滝川の今昔（二）

松村安美

滝川の御観音様

滝川部落の南方、やや小高いところに豊富な水をたたえた堤があり、約一反歩の広さの池の面に周囲の山景と、池の畦のお堂が影を映しております。この御観音堂「池泉庵」であります。

このお堂は、江戸時代の中ごろ創建されたもので、千手観音様をお祀りしてありました。昔はこの小さな庵に庵主様がいて、静かにおつとめをしていたようです。そしてきっと近所の人たちの相談相手になったり、悩みをきいたりして、この耕地や近郷の人たちの心のよりどころだったに違いありません。そんな姿を想像すると、あの越後の五合庵に住んでいたという良寛様の姿を思わないわけにはいきません。

須弥壇御本尊様の左手に、その坊さんや尼様の位牌が並んでおり、石塔はこのお堂裏手の小高い丘の上の我が家の墓にあります。

当時は毎年五月八日がお祭りで、耕地中で草餅をついて配ったから「滝川の草餅祭」として有名で、近村からもにぎやかに参拝があったといわれています。

このご本尊様は昭和二十三年ごろ盗難に遭いしばらくご不在でしたが、昭和五十年九月十三日、浅草より十一面観音様をお迎えし、泉龍院の国枝隆英師をお願いして開眼の法要をいたしました。

このお堂には文久三年鋳造の銘の入った立派な鐘がありますが、この鐘は当時の真龍という庵主様が発願し、この耕地や近在の人たちの浄財を集めて作られたものです。第二次世界大戦のさなかの昭和十九年奪金属回収が行われその対象となり供出したところ、消防団の北垣外の半鐘が割れてよい音が出ないためこれと取り換えて、以来三十年間、消防団のお役に立ってまいりましたが、関係の皆様のご理解と協力を得て、これらの方々の立ち合いの中で、村へ寄付をしたら新しい半鐘と交換をして、無事このお堂へ里帰りをいたしました。昭和五十年八月二十九日のことでした。

滝川公園と血流れ沢の話

台城の対岸に一段と高い眺めのよい場所がありますが、これが滝川公園です。この突端に立つと台城は手の届きそうなところにあります。その間を蛇行する天竜川の流れをたどると、北は土場の橋から南は弁天橋に至るまで、天竜川にかかる七つの橋が眺められ、前方には雄大な駒ケ岳と、その山麓に展開する風景は見事です。

その昔ここに合戦があったと伝えられています。そして滝川公園の地が台城の城を攻めた陣地だったという伝説は、あまりにも有名です。

天正十年三月十五日、勝ち誇った織田信忠の軍勢が南の方から雲霞の如くに押し寄せて台城を包囲し、その一隊がこの滝川公園の一角に陣取り、城をめがけて盛んに火矢を浴びせた。城が危ういので城兵たちは決死隊を出して、夜の闇にまぎれて天竜川を渡り、滝川公園南側の沢をひそかに登ってこの陣地を攻めようとした。織田の一隊はこれに気づいて、上から岩石を転がし、矢玉を雨あられと浴びせた。沢を必死に登ろうとした城兵たちは落ちてくる岩石や味方の兵士たちとともにごろごろと転げ落ちて、沢に真っ赤な血を流して死んでしまった。

台城の城が織田信忠の軍勢の手によって焼け落ちたのは天正十年二月十六日黎明のことだと伝えられています。

この沢の花崗岩の岩肌が、今も真っ赤に染まっています。それがあたかも鮮血の流れを思わせるのです。そしていつのころからか、この付近の人たちはこの沢を「血流れ沢」と呼ぶようになりました。

「ここに合戦はなかった」とするのが歴史家の定説のようです。自落したとされていますが、私はこの地に伝わる昔からの伝説は伝説として大事にして、これを、また子孫に伝えていきたいものと思っています。

みなさんも台城橋付近を通られたら、是非あの沢をのぞいて見てください。台城橋から約百メートル南の地点にある小さな沢です。山から清水が流れています。花崗岩の岩肌が不思議な水垢によって真っ赤に染まっています。また、機会がありましたら滝川公園まで登ってみてください。あの公園に立って戦国の戦のありさまをしのべば、この伝説も単なる伝説でないよう気がしてくるでしょう。われわれの祖先も、この地に立ってきっとそんなふうに考えてこの伝説を残したに違いありません。

（注）年月日等は『滝川耕地の記録』による。

（豊丘村民話集・第弐集（昭和五十三年）より）

文責：王生雅穂

こちら資料館㉘

江戸相撲に勝った仲の里

この四月、北村の郷土史研究家故鷹見栄雄氏のご遺族から、氏が残された研究物や資料・書籍類を資料館と図書館に寄贈したいとの申し出がありました。

お宅にお伺いして驚いたのは、その量の多さと資料の一つ一つが実に丁寧に整理されていることでした。

資料館では氏の貴重な資料の中から、史学会関係の資料とご自身が研究された豊丘関係の資料の一部をお預かりして参りました。

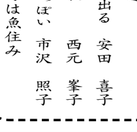
今回はその中から、かつて盛んだった奉納相撲に関係した資料を紹介します。

写真は、鷹見氏が飯田文化財の会の会員として、田村神社に奉納されている絵馬や額について調査した時、「南信州」に掲載された記事です。（平成六年）

『（一部抜粋）…この奉納額に刻まれている力士の一人に豊丘村河野の一仲の里勇之助」がいる。明治二六年に江戸相撲が伊那谷に巡業で訪れた際、河野の大宮神社で興業があり、このとき江戸から来た力士に挑戦して見事に勝利した。…』

この記事を書くに当たって、氏は仲の里の子孫を探し出して取材し、話が事実であることを確認している。また、その時の子孫の手紙が一緒に綴ってあるが、仲の里本人は「相手は一発で突き出してやろうと思ったんだな。立つやいなや凄い勢いで突っ張ってきたんだ。とっさに左に変わったら、凄い勢いのまんま土俵を飛び出していった」と語っていたそうだ。

やがて大正時代に入ると地方相撲は更に盛んとなり大正十年「竜東相撲協会」が発足し、仲の里は大世話人として活躍したという。



（資料館主任　唐澤武彦）

図書館だより　7月号

＜移動図書のご案内＞

八月の移動図書

二日（火）伴野勤労者福祉センター

四日（木）小園研修センター

五日（金）壬生沢福島集落拠点施設

時間　午後八時～九時

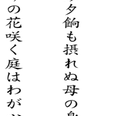
＜本の紹介＞

『地層のきほん』

目代邦康・笹岡美穂（著）

誠文堂新光社

岩石の種類や地層の構造など、地層に関する基本的なことを、やさしい文章と親しみやすいイラストで丁寧に解説しています。地殻の厚さを卵で例えると卵の殻よりも薄い、地層が長い年月をかけてどのように循環しているか、などを知ることができます。



『地球以外に生命を宿す天体はあるのだろうか？』

佐々木貴教（著）

岩波書店

生命が宿る天体には、なぜ「水」が重要なのか。生命が存在する可能性が高いと考えられている「火星」「木星の衛星」「土星の衛星」、それぞれの特徴などが、説明されています。太陽系外の惑星に生命が存在する可能性については、最新の惑星探査や宇宙望遠鏡の観測結果を用いて紹介されています。近い将来、新たな生命の発見が？想像が膨らみます。

（図書館　松尾こずゑ）

俳句短歌

紫陽花や風を忘れて彩かさね　磯部セツ子

景天の葉音静かにみどり風　片桐　洋子

梅雨の雲茜色染め日の出かな　森田　恵子

積み石の鋭洗うごと梅雨降れり　木下　眞水

乳母車近寄り易く甘茶仏　松岡　照子

麦の秋古城に続く峡の路　宮下　純子

事務室の色の増しをり更衣　林　恵美子

駒ケ岳の水音透けし谷若葉　丸山　時子

またたびの葉のしらじらと梅雨晴間　矢島千勢子

ふんだんにパスタを飾る夏野菜　池田　美和

十薬の花も香も好き路地も好き　細井　恵子

天竜の虹立つ朝へ歩を早む　吉川　明子

青嵐戦無き世願がふ日日　河手　洋子

立葵そよぐでここも無人駅　北原　昭子

〈とよおか短歌会〉

入学に母の里から掛けかばん黒のピロード花柄刺繍（昭和十五年）　壬生　千春

膝つきてスギナ、ドクダミ、カタバミは抜きても抜きてもなお強く雑草　筒井　恵子

師走より眠れる蛹は春なかば黒揚羽と化し花に戻りぬ　大原眞由美

嫌われし杉茶退治に思うこと「つくし誰の子スギナの子」とふ　松尾ヒサコ

春風に帽子コロコロ川の土手犬は追いかけ押さえて待てり　福澤貴美恵

足むくみタ飼も拱れぬ母の身をグーグル頼みのにわか診断　福澤　郁文

とりどりの花咲く庭はわが心衰え初めしを打ち消しくるる　毛涯百合子

「忘己利他」改めて識ぬリトアニア千畝の決断「命の査証」を　福澤　亀人

川柳

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「術」　福沢勝美　選

ヨコ文字で気取る言葉にある魔術　小澤　漂

むずかしい学術用語で煙にまき　久保ひろし

なる術が無いまま犠牲累々と　山本　義彦

▼課題「語」　互選

焼け跡のドームが語る平和をと　原　美風

それぞれの人生にある物語　林　もも子

満蒙の語り部すでに九十過ぎ　福沢　勝美

▼自由吟　久保ひろし　選

ウクライナ抱き合う二人涙出る　安田　喜子

物価高ミニ菜園に助けられ　西元　峯子

どう見てもやぶれジーンズごみっぽい　市沢　照子

軸吟…ミサイルに日本海では魚住み

第３分館 マレットゴルフ大会
コロナ禍での活動を通して

体育部長　酒井泰尚

第三分館では農休日スポーツ大会という事で六月十二日にマレットゴルフを三十六名の参加でアカシアマレットゴルフ場にて行いました。

今年もコロナ禍でどの様な事が出来るのか？また、今回行事を行う事は妥当なのか？感染対策や中止の判断基準はどの様にしたら良いか等が課題でした。

マレットゴルフなら、野外で風通しも良く密を避けやすいのではないかとまとまりました。

当日は道具や手の消毒、参加者の方には検温と体調チェックシート記入をお願いしました。

しかし、感染状況が落ち着いてどんな対策をしても、この様な場に参加するのにどうしても抵抗があると言う意見もあり、難しい判断だと考えさせられました。

また、ここ二年余りはコロナ禍で十分な公民館活動が出来ず、予算も残ってしまっている状況でした。例年であれば慰労会を行っていましたが、それに代わる物として参加賞を少し豪華にして準備しました。

なるべく地元のお店で、地元の商品を選び、これには皆さんにとても喜んでいただき良かったです。

コロナ禍でも今回この様な事業が出来たのはとても良かったと感じました。地域の皆さんが健全な生活を送るためにも、体を動かしたり交流する事が大切だと感じました。

公民館ゲートボール大会を開催
6月24日

公民館主催によるゲートボール大会が六月二十四日に豊丘村屋内ゲートボール場（スポーツ館）において開催されました。この日は豊丘村の最高気温が三十二℃程に達する真夏日となりましたが、快適な午前中のうちにすべての試合を終えることができました。

ゲートボールはチームスポーツです。ルールもなかなか複雑で、様々な打ち方があったり、相手の動きを読んだりと高度な技術と作戦も求められる競技です。そのような難しさもあってか、村内では競技人口が年々減少してる状況となっています。今年は四チームが参加しての大会となりました（昨年は六チーム）。

コート内では和気あいあいの中にもルールには厳しく、てきぱきと動いて、きちっと競技を行っていく姿がとても印象的でした。「試合なんだから遠慮はいらんよ」という熱の入った言葉も飛び交い、勝負に対する姿勢も真剣そのものでした。一試合は三十分間と決まっていますが、その間ずっと歩いているような感じで、とても良い運動になっていると思います。参加された方は、「とても楽しい」とおっしゃっていました。

豊丘村ではゲートボール連盟に加盟している皆さんが普段から練習に励んでいます。ゲートボールは生涯を通して行える競技ですので、皆さんも是非、挑戦してみてはいかがでしょうか。

（公民館主事　松村幸紀）

順位	チーム名
優　勝	福島Ｂチーム
準優勝	福島Ａチーム
第３位	林里チーム
第４位	壬生沢チーム

館報研修会
豊丘村公民館も事例発表

六月二十五日に、松川町中央公民館を会場として令和四年度長野県公民館報関係者研修会が開催されました。参加者は百十五名で、遠くは木島平村や飯綱町からの参加もありましたが、今年は主管が南信地区ということで、飯田市や下伊那郡下の公民館の編集委員や広報委員、公民館主事などが多く参加しました。

公民館報関係者研修会では、公民館からの情報発信に役立つ多くの事例や新しいツールの紹介、先進的に取り入れている公民館の取り組みなどが発表されました。また、県下各地の公民館が発行した館報も持ち寄られ、他の公民館の館報資料を入手できたり、編集委員同士で情報交換が行われたりと、積極的な交流が行われていました。

今年の講演会では、岡谷市にある中央印刷株式会社の営業部課長　三浦新也氏をお迎えして、「読者視点に立った紙面づくり～ユニバーサルデザインと広報活動のトレンド～」と題した講演が行われました。館報をはじめとした広報物では付き物の悩みである、「読んでくれる人を増やしたい」「幅広い世代に読んでもらいたい」「新しい情報発信の手段を知りたい」といった課題に関して、豊富な知識と実例を紹介いただき、明確なアプローチの方法について学ぶことができました。

特に読者層の拡大に関しては、若者世代とシニア世代について、それぞれの世代の傾向を分析され、各世代にリーチする効果的な方法を提示いただきました。また、表題にもあるユニバーサルデザインについては、公平性や明確さなどの原則について、詳しく解説いただきました。これらは、館報だけではなく、様々な事業やイベントにも活用できる知識だと思われます。

午後からは、四つの分科会が開催されました。

第一分科会は、豊丘村の市澤公民館長と前公民館主事の麥島氏が話題提供者となり、「はじめてのインターネット活用～流行のあれこれを使って～」と題した講義を行いました。豊丘村公民館は、令和三年十二月にインターネット活用コンクールで奨励賞を受賞しています。その立役者であった市澤館長と麥島前主事が、ホームページの見やすさや情報へのたどり着きやすさ、TwitterやLINEを活用した情報発信の手法について、そして今後取り組むべき課題についても解説しました。

第二分科会では、南信州新聞社の佐々木編集部長をお迎えし、「読みやすい広報記事の書き方」と題した講義が行われました。第三分科会では、龍共印刷株式会社の松下課長をお迎えし、「興味をもって読んでもらえる館報づくり」と題した講義が行われました。また、第四分科会では、松川町館報の編集部員を務められる宮下氏をお迎えし、「紙面を彩る写真撮影」と題した講義が行われました。

どの講演も、館報だけではなく今後の公民館事業や情報発信にも役立つものばかりでした。この日得られた知識を、ぜひ積極的に今後の活動に活かしていきたいと考えています。

（公民館主事　萱沼智子）

私のほっとするとよおか
滝川公園に立つと ③

いつも眺める風景は、南北に流れる天竜川、竜西の段丘崖、その上に広がる山麓扇状地、そして吉田山などの木曽山脈の山並みです。

そんな中で、村の北端にある滝川公園に立つと、蛇行する天竜川、万年橋、河野新田、遠くに下条山脈、蛇峠山、大川入山、恵那山山頂が望めました。これらの山並みは東西方向に連なっていて、伊那谷の南端に当たります。

公園から眺めていると、弥生文化はあの山並みの間を抜けて南から、古墳文化は恵那山北の神坂峠を越えて西からやってきたと、大昔の文化の通り道に思いを馳せることができ、わくわくしてきました。

いつもと違う風景は、わくわく感や気づきを高めてくれるように思えます。

（中部三　市澤英利）

あなたの『ほっとするとよおか』をお寄せください

このコーナーは、豊丘村の中であなたが『ほっとする』場所、人、空間、食べ物、動植物など、なんでも自由に300文字でご紹介ください。（写真は１枚）

～シリーズ～ No.222 豊丘の自然

ユキノシタ（ユキノシタ科）

このシリーズ、早いもので書き始めてから満二十年が過ぎた。写真で紹介した動・植物は二百二十二種類になった。今月はユキノシタを。実は、このユキノシタ、大島正人さんがシャツのポケットに一輪さして「この花、紹介してくれないか」と置いていかれたのだと聞いた。

宮外勝さんは写真を持参して「ナガホノナツノハナワラビかどうか確かめてほしい」とのこと。

市澤英利さんは「私のほっとするとよおか②」でシロバナタンポポを紹介している。

ひとりひとりの方の日常生活の中に、まちがいなく動・植物があるのだとあらためて知った。

だからだろうか。信毎の「こと映え」が気になる。

（山田　拓）